

# 甘 秋(かんしゅう)

登録番号：(出願公表番号第14906号)

登録年月日：(出願公表平成14年12月16日)

登録者：(出願者)：(独)農業・生物系特定産業技術研究機構

育成者：山田昌彦 山根弘康 佐藤明彦 吉永勝一 平川信之 岩波 宏 小澤俊治 角谷

真奈美 三谷宣仁 吉岡美加乃 中島育子

来歴：「新秋」と18-4(「富有」×「興津16号」)の交雑実生

育成地：広島県豊田郡安芸津町((独)農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所ブドウ・カキ研究部)

## 特 性

### ■栽培特性

樹勢は中程度で、樹姿は開張と直立の間中である。潜芽が吹きやすく、側枝の更新は容易である。雌花の着生は多く、雄花も少し生じる。雄花は一般に弱小な結果母枝に着きやすく、弱い新梢ばかりでは雌花の着生が減少し収量が低下するため、雄花の着生した弱小な結果母枝や側枝は順次更新し、強めの新梢を発生させ雌花の確保に努めることが肝要である。開花期は「伊豆」と「松本早生富有」の間中である。

1果当たりの含核数は周囲に授粉樹がある場合、平均4個程度で「松本早生富有」並みに多い。一方、単為結果力も例年極めて高く、葉蕾比13程度に摘蕾を行ってれば早期落果は極めて少ない。8月以降の後期落果はほとんど生じないが、異常年には発生する場合がある。

### ■果実特性

完全甘ガキであり、果実の成熟期は「伊豆」と「松本早生富有」の間中、育成地(広島県安芸津町)では10月中下旬に熟する早生品種である。果形は「富有」より腰高で、果皮色はあまり赤くなく、カラーチャート値で果頂部5.5～6程度である。果実の大きさは、「松本早生富有」より小さく、「伊豆」と同程度である。

最終収量の1.5倍のつばみを開花前の摘蕾(葉蕾比13)で残し、7月に葉20枚当たり1果程度の着果調整を行い、夏期に適度な灌水を行うと、平均240g程度の果実が得られる。

果肉の硬さ、果汁がともに中程度であるが、甘いことが特徴で、糖度が20度を超えることもあり、食味はよい。果実は果頂部と果底部の熟度差が大きく、果底部のカラーチャート値が3.5程度では糖度が低い果実もあるため、4以上で収穫する。日持ち性は「伊豆」より長く16日程度である。へたすき、果頂裂果はまったく生じない。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

果頂部付近とへた周りの雲形状汚損の発生が多いのが欠点である。汚損果の発生には、降雨によるぬれや高湿度条件などが大きく関与していると考えられ、夏秋季に好天に恵まれた年や、8月以降雨よけ栽培を行った場合には、雲形状汚損の発生はほとんど認められない。また、チャノキイロアザミウマの被害を少し受けるので、開花期以降、特に開花直後の防除が重要である。

### ■地域適応性

完全甘ガキであり、夏秋期の気温の高い地域に適応し、一般に「松本早生富有」、「富有」、「次郎」、「前川次郎」栽培地域で栽培できる。

(佐藤明彦)